

平成27年度第1回長野県信濃美術館協議会議事録

- 開催日時 平成27年5月25日（月） 午後1時30分～午後3時50分
- 場 所 長野県信濃美術館 講堂
- 出席者

【委員】

石川利江委員、 小根山克雄委員、 小野文子委員、 草薙奈津子委員
小坂壮太郎委員、 小山利枝子委員、 高松和子委員、 西澤 剛委員

1 開 会

○寺沢総務課長

皆様、本日はお忙しい中、お集まりをいただきまして、まことにありがとうございます。ただいまから平成27年度長野県信濃美術館協議会を始めさせていただきます。

私は総務課長の寺沢政之と申しますが、本日の進行をさせていただきますので、よろしくお願いをいたします。

例年、当協議会は公開で開催させていただいておりますが、本日は特に報道関係の方々がお見えになられておりますので、ご了承をお願いいたします。

初めに、長野県信濃美術館館長、橋本光明からごあいさつを申し上げます。

2 あいさつ

○橋本館長

本日はご多用の中、お時間を割いてご出席いただきましてありがとうございます。また日ごろから委員の皆様方には、当館についていろいろな面からご支援、それからご協力をいただきまして、職員を代表いたしまして、この場をお借りしまして感謝申し上げ、御礼申し上げます。ありがとうございます。

昨年からの協議会は6月か7月に開催するというので、私も昨年度から準備をしてみましたけれども、ご承知のとおり4月に「信濃美術館整備検討委員会」が発足いたしました。そして、その所掌事務を具体的に担当している、うちの職員を代表しての館長が特別委員として出席するというので、改めて拝命いただきましたので、私としては早速、私個人の意見ではないので、職員全員を集めまして意見を聞いたり、それからアンケートをとったり、いろいろと私には目の届かないところを、アンケート等、それからいろいろな意見を聞きまして把握していかないといけないということで、現在まで至っております。

それと同時に、指定管理者になりましたのが平成18年ですけれども、もう約10年近くなりましてけれども、幸いに私もこの協議会にそのときから出席いたしまして、皆様方からその都度、この老朽化の問題や、それから建て直し等のご意見がいつも出されておりました。そこで職員に意見を聞くばかりでなくて、協議委員の皆様方にご意見を聞くということが非常に重要ではないかと思っております。ただ、私がそんな権限もありません。3月の理事会にも近藤理事長さんから、橋本館長、今の整備計画はどうなっているんだというご質問を受けましたときに、いえ、私は建物に関してはわかりませんと、これは県が行うもので、私たちは今あるところで全力を尽くすだけであるということは、もう一線を画しておりましたけれども。

今、申し上げましたように、委員の皆様方から本当にいろいろとこの施設、建物についてご意見いただいておりますので、やはりこの協議会を生かさないといけないと思っております。早速、越権ですけれども、事業団を通しまして、県にこの協議会で、この整備検討についてのことを

協議していいかということをお尋ねいたしました。そうしましたら、県のほうもこの協議会の委員のメンバー様からご意見をいただきたいと思っていたということで、意見が一致いたしました。そこをご許可を得まして、私の諮問として今回、議題にさせていただきました。

もとより、何しろ私たちはこの与えられた建物の中で事業活動を行っていかねなければいけないので、この時間も、本来ならば、私たちが日常やっている事業活動について時間を割いて、今までどおりご意見をいただきましたかったですけれども、6月に2回目の整備検討委員会が開かれるということで、やはり最初に言いましたように、当初の6月、7月の協議会よりも5月のほうがいいと。やはり適時性というものを考えまして、急遽お忙しい中、この時期に開催させていただきました。ありがたいことに、本当に委員の多くの皆様方が今日ご出席いただきまして大変うれしく存じております。どうか、いろいろなところからお一人お一人の貴重なご意見をお伺いしたいと、そう思っております。

そのことを重ねて申し上げて、あいさつと申し上げます。ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

○寺沢総務課長

それではここで、委員の自己紹介をお願いします。石川委員さんから、着席の順でお願いしたいと思います。

○石川委員

石川利江と申します。長野市内でいろいろ文化芸術を中心とした、地域との計画づくりなどの企画の事務所とギャラリーをやっております。よろしくお願いいたします。

○小根山委員

信越放送の小根山と申します。私としましては、この協議会、今回初めての出席でございます。今までの経過とかいきさつがよくわかっていなくて今日出席させていただいておりますが、よろしくお願いいたします。

○小野委員

信州大学の小野でございます。よろしくお願いいたします。

毎度のことでございますので、今日は静かに座っていようかなと思っておりますが、申し上げることは申し上げたいと思います。よろしくお願いいたします。

○草薙委員

平塚市美術館の草薙です。今日、善光寺さんの御開帳をちょっと見てきまして、ここに来ましてから展覧会を拝見したりしまして、ちょっと疲れているので、きっとおとなしくしているだろうと思います。

○小坂委員

信濃毎日新聞の小坂でございます。今、当館で開催中の「"いのり"のかたち」展、美術館の皆さんと一緒にやらせていただいております。かねてからこの会では、改築について早くしてほしいというようなお話しをしていしましたが、ようやく話が動き出したこと、大変うれしく思っております。よろしくお願いいたします。

○小山委員

長野市を拠点に画家をしております。

私の元気なうちはこの美術館は新しくならないだろうという、もう絶望のもとに、もう外に目を向けてまいりましたけれども、とうとう本当に現実にそれが動き出したということで、本当に言葉にならない喜びを感じております。本当にすばらしい美術館になってほしいなというふうに思っていますけれども。

今日はいろいろお話しもお伺いできると思いますので、楽しみにまいりました。よろしくお願ひいたします。

○高松委員

飯田からまいりました、昨年都合がつかせんで初めての出席になります。よろしくお願ひいたします。

学校法人の高松学園の理事で、認定こども園の教育の現場を持っております。もう一つ、飯田の人形劇フェスタのほうで長い間、実行委員長をさせていただいておりましたが、年ですのて引かせていただいて、今はNPO法人いいた人形劇センターというのがございまして、そこで今、「飯田市川本（喜八郎）人形美術館」を指定管理ということで請け負っております、少しだけ美術とつながったかなというふうに思っているところです。何もわかりませんが、よろしくお願ひいたします。

○西澤委員

この3月まで長野県美術教育研究会、図工美術の先生方の会を運営させていただいておりました西澤剛と申します。この4月から長野市の教育委員会の生涯学習課でお世話になっております。

先生方の本当に待望の美術館が本当に一歩、動いたなという感じです。子供たち同様、先生方も期待をしておりますので、今までのものを全て出して、ここに期待を寄せてくるのではないかと考えております。

今日はお世話になりますけれども、よろしくお願ひいたします。

○寺沢総務課長

ありがとうございます。なお、本日所用のため、内田委員さんと牧委員さんがご欠席されておりますので、ご報告申し上げます。

続いて関係職員を紹介いたします。初めに当美術館を所管しております、長野県県民文化部県民文化参事兼文化政策課長の阿部精一でございます。

同じく文化政策課企画幹兼課長補佐、竹村浩一郎でございます。

同じく文化政策課課長補佐兼芸術文化係長、田中徹でございます。

同じく文化政策課主査、霜田英子でございます。

続いて、当美術館が所属しております一般財団法人長野県文化振興事業団の常務理事、松本有司でございます。

次に信濃美術館の職員をご紹介します。

副館長の中部俊彦でございます。

学芸課学芸係長の伊藤羊子でございます。

同じく主任学芸員の木内真由美でございます。

主任学芸員の渡邊美保でございます。

最後に、総務課の和田貢でございます。

3 議 事

○寺沢総務課長

それでは、議事に入りたいと思いますが、その前に本日お配りした会議資料のご確認をお願いいたします。非常に点数多くて申しわけございません。

まず1枚物で協議会次第、それから出席者名簿、それから配席図、ちょっと厚めの、表紙に平成27年度長野県信濃美術館協議会、説明資料と記載してある資料でございます。それから、これも厚いダブルクリップでとめてありますが、第1回長野県信濃美術館整備検討委員会資料、そしてA4横のものですが、長野県信濃美術館整備検討委員会検討スケジュール(案)、矢印のいっぱい出ているもの、ちょっと薄いものです。それから1枚物、A4横で文化振興元年と表題のついている資料でございます。そして参考といたしまして、小さいものですが、当館のパンフレットでございます。

点数が非常に多いんですが、お手もとにございますでしょうか。なお、先日、各委員さんには事前にごらんいただきたいということで資料をお送り申し上げてございますが、その後、確定した事項等がございまして一部修正してございますので、本日の説明は、今日お配りいたしました資料に基づいて説明をさせていただきたいと思います。

それでは次に議長でございますが、当協議会は館長の諮問機関として位置づけられておりますので、以後の議事は館長が進行をしてまいります。

では橋本館長、お願いいたします。

(1) 平成26年度事業実施状況について

○橋本館長

それでは、私が議事の進行をさせていただきます。

最初に議題、(1)平成26年度事業実施状況についてを議題にいたします。副館長から説明申し上げます。

○中部副館長

平成27年度長野県信濃美術館 説明資料を説明

○橋本館長

たくさん内容で申しわけありません。質問、ご意見、これからお伺いいたしますが、まずご質問ございましたらお願いいたします。小野委員、お願いいたします。

○小野委員

質問ですけれども、私、美術史を研究しておりますと、大学で美術史を研究する者も美術館で学芸員として美術に携わられる方も研究者として同僚という意識でおりますし、実際に美術館の学芸員の方のご研究には非常に、日本の美術史教育を支え、そして海外へも発信していくすばらしい方々がたくさんいらっしゃるわけです。その中で、この説明資料を見ておりますと、美術館の学芸員の方の個々の具体的な活動が見えてこない。

それで私の質問は、この事業の中で、こちらにいらっしゃる学芸員の方のご研究を発表するような展示会はありますかということです。まずそれが1点目。

2点目が、収蔵作品に関するご研究発表等をなさっていますでしょうか。

3番目が、こちらの収蔵作品の、あるいは作家の、関連作家の研究、最新の研究について、どれくらい学芸員の方は把握されているのでしょうか。

○橋本館長

ありがとうございます。それでは3点について。

○伊藤学芸係長

では、お答えさせていただきます。今の1番の個々の具体的な研究が見えてくる展覧会があるかというご質問ですけれども、本当に毎年というわけにはいかないんですけれども、担当させていただいている作家の、担当といいますか研究させていただいている、勉強させていただいている作家の周年事業のときなどは展覧会として組むということが、かなうことはございますが、現在のところ、なかなか、そのまま直結した活動が成果としてあらわれるというものは、本当に数年に一度あるかないかというところで、なかなか実現していないのが現状でございます。

それから2番目も同じような答えなんですけど、収蔵品作品に関する研究をしているかということですが、例えば東山魁夷さんみたいな、ずっとやらせていただいている、常設でやらせていただいている方の生誕100年展、2008年にさせていただきましたが、そういうときには、それまでの成果みたいなものを一緒にテキストとして発表させていただくということはあるんですけども、あとは紀要で、収蔵品の個々の個別のものをそれぞれが発表するというので、これをチャレンジをしているという現状でございます。

3番目に関しましても、最新の研究に関しましてどのくらい把握、データしているかというのは、本当に個々で今、自分が担当しているものを集めるというところにまだとどまっておりますので、そういうのが現状でございます。

○橋本館長

草薙委員さん、お願いいたします。

○草薙委員

今、小野さんがおっしゃったことというのはすごく美術館にとって大切なことだと思うんですけども、なかなかこれはできないというのが現実だと思います。

こちらの学芸員って、一体何人いらっしゃるんですか。

○橋本館長

現在8名おりまして、プロパーが3人、残りの5人が臨任でございます。

○草薙委員

5人が・・・

○橋本館長

臨時で、非正規で。

○草薙委員

臨時、それで正規の職員が3名、そうですか。やっぱりそれがとてもまずいんじゃないかと思うんですけども。それから、ここの展覧会、幾つかなさっていらっしゃるんですよね。これで、ここの美術館がカタログをつくった展覧会というのは。

○伊藤学芸係長

共同でさせていただいてもものも含めて、5本のうち3本でございます。

○草薙委員

どれとどれと。

○伊藤学芸係長

②番、ニホンガっておもしろい、それから③の信州大学とのコラボ展、それから⑤でございます。

○草薙委員

5番ですね。これは共同ということは、巡回した展覧会なんですか。

○伊藤学芸係長

3館で共同とか、そういう形でしたものが、⑤番目が高橋節郎館、節郎の個人館を持っていらっしゃる安曇野と豊田市と私どもで3館でさせていただきました。

○草薙委員

3館ですね、それから③の信州大学との。

○伊藤学芸係長

それはここだけでございます。②もここだけです。

○草薙委員

②もここですね。そういう展覧会のカタログをつくるというのはすごく勉強になることですし、なるべくそういうふうな方向へ持っていきたいところですけども。

予算が、この美術館はそういう展覧会、カタログつくる予算というのはちゃんとついているんですか。

○伊藤学芸係長

結局、そこは逆にありがたいところでもあるんですけども、その展覧会の関する予算ということで印刷費も当然つけてあるんですけども、場合によってはそういうものをどうしても展示のほうに使いたいとかということで、それが薄くなったり、なくしたりすることもありますけれども、基本的には巡回展ではないものについては、カタログをつくるようにさせていただいております。

○草薙委員

そうですね。そうすると、まだまだ多少は勉強する機会があるということですね。

学芸員というのは、そういうことをやっていかなければいけないわけですから。今、伺いますと、プロパー3人しかいらっしゃらなくて、あとはアルバイトというのは非常にまずい状態ではないかと思えますし、学芸員が育たない。いろいろな困難はあると思えますけれども、やはり学芸員が育つような方向に持っていかないといけないと思えます。

それからその一方で、よく学生時代にした勉強を、美術館に来て展覧会に反映させたいということはあると思うんですけども、これは美術館側に言わせますと善し悪しで、やたら専門的なカタログはつくっても、一般の人のことは何も考えずにつくっているものが多いということがあります。大学に残っている方と美術館に来た学芸員とでは違うところであって、あくまでも、美術館は一般の方を対象にしているということ、重々気をつけた上でいろいろなことを

していくと。

それから、新しい所蔵品が入ったときに研究するという事は、美術館でないとできないことですから、大いにそういうことをしていただきたいと思います。

ただ、そういうようなことができるだけの時間を、美術館が学芸員に与えているかどうかです。日常のことが忙し過ぎて、そういうことができないという美術館が結構多いんです。理想的なことがとてもしにくいのが、今の美術館の現状ではないかと思えますけれども、やっぱり学芸員というのは勉強してはいけないことですから、頑張ってくださいと思います。

○橋本館長

小野委員、草薙委員からご指摘のことは、本当に私も実は学会なんかに行きまして、国立の美術館や博物館、それから県立レベルでは大きなところ、やはり職員に余裕があるところは研究発表されていますよね。だから私は、常に、研究というのはいつもできますので、やってほしいと。それから、私の希望としてはやっぱり研究、研修部というのがあって、そういうところにチーフがいて、専門にそれを推進していくような学芸員がいなければいけないと常々思っています。

そのことを前提すると、私が答えましたように3人のプロパー、これではもうまさに展示、それから保管等で精いっぱい研究までいかない。でも、研究というのは大事な仕事であって、それが展覧会にも反映いたします。収蔵をやる、作品を集める場合の一つの基礎にもなりますので、働きかけていきたいと思えます。これも事業団、県に対して強く言ってまいりたいと思えます。

○草薙委員

もう一つ、聞きたいことなんですけれども、この入場者数を見てみますと、手塚治虫と石ノ森章太郎展がえらい少ないですよ。噴火のこともあったりしてとおっしゃってらっしゃいましたけれども、それにしてもすごく少ないなと思うんですが、これ何か原因が、噴火以外にも原因があったんですか、それとも原因もわからず、こんな人が少ないと。

○橋本館長

少なかったのは確かに手塚眞さん、息子さんの眞さんがオープニングのごあいさつで、御嶽山のお見舞いのお言葉をいただいたんです。非常に、そういう意味では、開会する直前のことでしたので、雰囲気的にもそういう状況でした。ただ、私、年間を通してやはり少なかったのは、これは職員と話したんですが、8%の消費税というのは全国的に見てどの展覧会も、ちょっと情報をお聞きすると、少なくなっているということでありました。

ですから、この原因は直接的なものは、今のところ御嶽山以外のところはわかりませんが、ただ、その前に山梨がやっています。そのときも少ないという情報を得ていますので、やはりこれはどうかと。交通の便がうちのほうがいいので、もう少し入るのではないかと思ったんですが、現実にはこれ伸びなかったというのは、ちょっと残念でした。

それから思うに、50歳以上の方は手塚治虫さんに関してはよく知っている。私、まだ短大を教えていますので、若い人に聞きましたら名前を知らないんですね。それが現状だなと思ひまして、若い人向けの、単なる、マンガといえれば若い人というのではなくて、やはり過去になってきているなというのを実感いたしました。

○草薙委員

そうしますと、やっぱり展覧会を選ぶときがすごく重要になってきますよね。もうこの手塚

治虫とか石ノ森章太郎というのは、おじ様、おば様、おじい様、おばあ様が対象だということ
を把握しなければいけないということです。これ、マンガの展覧会、大体入るんじゃないかろう
かというふうに思う人が多いと思いますけれども、目標の36.8%はいかにも少ないです。だから、
今後展覧会をするときに、そういうことも考えなければいけない。

この中でおそらく、この展覧会に入るのではなかろうかと思ってなすったものだと思います
よ。これだけ差があるということは、やっぱり読み違いということであって、今後そういった
ことも気をつけなければいけない。

○橋本館長

お隣にいらっしゃる小坂委員には、そういう意味では、申しわけないという気持ちでいっば
いです。信毎さん、力を入れていろいろとご尽力いただいたんですが、結果はこうであったと
いうことです。私たちも反省しなければいけないことはたくさんあります。では小山委員、お
願います。

○小山委員

ミニ企画展の中に新収蔵品展というのがあって、私は拝見できなくて残念だったなと思っ
たんですが。

開館以来、郷土ゆかりの作家と信州の風景画を中心に作品を収蔵してきたということがあり
まして、その辺のことは全然存じ上げなかったんですけども、毎年、作品は収蔵していらっ
しゃるんでしょうかということ。それから、その予算的なことというのはどんなふうに推移
しているんでしょうかということ、そしてその作品の選定に当たっては、どういうプロセス
で決定していいらっしゃるんでしょうかということをお伺いしたいんですが。

○伊藤学芸係長

今の3点についてお答えさせていただきます。

取得に関して毎年しているかというご質問に関しては、いわゆる購入で毎年しているとい
うわけではありませんが、ご寄贈の依頼というのは大変多く、今、毎年いただいて、むしろ年々
増えているような状況で、その中で、当館の信州ゆかりの作家、特に取材地といいますか風景
画を描くということに照らし合わせて、どうしても今いただいておかないと散失しまうとか、
そういう理由が、特段のものは逆にもう、今、新聞でも出ていたような感じでも、物理的に収
蔵が難しいのでほとんど受けられない状況ではあるんですけども、そういうものに関しては
ちょうだいしているというのが現状です。

それから、あと、去年はそうだったんですけども、県、これはまさに県のほうに取得基金
というのがございまして、そこに毎年、こういうのを買いたいという要望を、今までのその収
蔵方針に照らして、今のようなお話があったものですとか、あとは市場でこういうのが出て
いるというふうに情報を入手したものについては上げておまして、それがやはり毎年、県のほ
うでも頑張っただけでいいからほしいというんですが、去年のようにポンとそれが通る年というの
は購入がございまして。去年の前は、5、6年前だったと思いますが、池田満寿夫の黒田コレク
ションの残りというものを全て取得するということができたんです。そういう意味では、本当
に5、6年に一度という形でその基金を使わせていただくことができることとなります。

そして3番目のプロセスに関しましては、これも、今、要は金額、動く金額によって、そこ
に途中で委員会が入ったりということで違うんですが、基本的には私どもが先ほど言ったよう
に、こういうものが出ています、こういう依頼がありますというのを県に上げまして、そこ
でご判断をいただいて、これまでは購入すべきかどうかをかけたものに関しては、その
種類の専門家に方にお集まりいただきまして選定委員会を開いて、それを入れるべきかとか、

その価格が、あちらの売りたいと言っている方の価格が適当かどうかという審査をしていただくということ、もちろん作品の真贋も含めて、かけていただいて購入するということになっております。

○小山委員

わかりました。では大体こういうものが出ているとか、これはいいんじゃないかとかというのは県に上げるという、その判断というか、それは学芸のほうでしていらっしゃるということですよ。

○伊藤学芸係長

本当に情報を提供して、こういうのが今、出ていますとかというのはしております。ただ、本当に草薙先生のお話しでないですけれども、本当はもっと足繁く画商さんとか画廊さんを回ったりということをしなればいけないと思うんですが、本当に今そこまで、正直してられない、していないのが現状で、していらっしゃる、今までいろいろなことでお世話になっているところからこういうのが出ていると、お宅に関係ないのと言っていたりするとか、あとは著作権者の、東山に関しては著作権者の方からなかなか出ない、当館の持っているシリーズが出たというときには情報をいただくということが現状でございます。

○小山委員

わかりました。またいろいろ思うところもあるので、また。

○草薙委員

よろしいですか。先ほどの3ページのコレクション展とミニ企画展と、どう違うんですか。

ミニ企画展で新収蔵品展をなさっていますよね。そうすると、このミニ企画展の新収蔵品展とコレクション展とはどういうふうに違うんですか。

○伊藤学芸係長

本当に単純に部屋の大きさの規模が違うということでございまして、わかりにくくて恐縮ですが、ミニ企画展というのはこのすぐ下の、ひと間だけのガラス張りの部屋だけが空いているとき、あとは貸し会場で大きい部屋を使っているときに、このミニの収蔵品の企画展をしているという状況です。

○草薙委員

そうすると、料金はお幾らなんですか。

○伊藤学芸係長

料金は、こちらのミニのときは、この※もございまして、開催の展覧会によりまして、例えばこちらが貸し会場になっている場合は東山と共通といいますか、東山を見ていただいたプラスアルファで見えていただけるようになっております。

○草薙委員

で、ここのコレクション展のところに、観覧料金大人500円となっておりますね。そして東山魁夷館との共通料金が大人800円となっておりますね。東山魁夷館だけだとお幾らなんですか。

○伊藤学芸係長

一般は500円でございます。

○草薙委員

500円ですね。そして、本当だったら1,000円のところを200円安くしますと、私はこれは高過ぎると思います。東山魁夷館を500円だったら、そのときに少なくとも、コレクション展とか、それからミニ企画展はそれで見られますとすべきです。それで見ようと思う人はいると思います。やっぱり幾らか払うんだったらわざわざ見なくてもいいけれども、このチケットでそっちも見られるんだと思ったら、見る方は出てくると思う。高過ぎると思います。

○伊藤学芸係長

先生、本当にご指摘いただいたように、平成22年までは今の、先生に言っていた方式で、収蔵品もこういうのがあるんだと、見ていただくというのをやっていたんですが、ちょっとなかなか財政的に県のほうでそれが厳しくなったということで、今、こういう料金設定になっているという現状です。

○草薙委員

でも平成22年度、一番最初のページのところで、22年度から26年度までありますよね。22年度が一番入っていて、その翌年、翌々年なんてどんどん下がっていているじゃないですか、その高くしたときが。ということは、やはり高過ぎるんですよ。高過ぎる。

○伊藤学芸係長

ありがとうございました。

○小野委員

先ほどの購入のことと、小山先生おっしゃったこと、草薙先生おっしゃったことと、先ほど私が申し上げたことなんですが。そもそも研究というか、作品について、私が1、2、3と伺った3点について全く明確な答えはいただけないわけです。そうした場合に、一体、何の言いわけがあるのかと本当に思うんですが。

購入はどうやって、では選定するんですか。全く、例えば美術館で自分のところの作品なり作家なりにかかわるものは、新しい知見があるものはスクラップしておくとか、そういったことは最低限やって、やらないと、本当に購入したもの、本物なのかということも出てきますし、学芸員の勉強不足でした、お金は使いましたでは、話にならないと思います。

そして、このコレクション展、ミニ企画展と、何でもいいんですけれども、どうやってコレクション展をなさっているんですか、研究なさっていないのに。何を、あるものを引っ張り出してきて、また一般の人にわかればいいんだということで、また似たようなキャプションをつけてやっているのであれば、これはちょっと学芸員としてどうなのかなと思います。その最先端の研究どうのこうのという以前の問題で、後で検討、整備についてのところで私、意見をまとめてきましたので、申し上げたいと思いますけれども、ちょっと、やはり甘いと思います。プロ意識がない。

○橋本館長

大事なご意見だと思っております。よく胸に収めて、これからまた改善していきたいと思えます。

それでは、石川委員、お願いいたします。

○石川委員

私は結構なんですけれども、説明資料に来年度からぜひ、新収蔵品のリストみたいなものも加えていただきたいなというふうに思いました。よろしく願いいたします。

○橋本館長

わかりました。それでは、質問の中でご意見もという感じになってしまったんですが、ご意見を含めて、もうお一人かお二人に限定したいと思います。あとがあるので大変申しわけありませんけれども。では、お願いいたします。

○小根山委員

初めての出席で、ちょっと的外れの質問かもしれませんが。

今、去年の事業実施状況というのをお聞きしたんですが、これに伴う、いわゆる事業活動があったわけですから、それに伴うその収支構造という、収支決算というんでしょうか、こういうものはここでは、公告はあまりなさらないということでしょうか。

それからもう一つ、ずっと入場者を見ていましたら、約半分、物によっては3分の1ぐらいが無料なんです。無料は高校生以下だということで、底辺、若い人たちにより多く足を運んでいただくという趣旨からは大変結構かと思うんですが、結局、無料入場者が多いほどイベントとしては非常に採算性が悪くなっていくということが片方であると思うんです。この辺、高校生まで無料でもいいのかというような気が個人的にはするのが一つ。相矛盾した言い方なんです。最近多くのその公設の美術館とか博物館、そういうところは確か70歳以上でしたか、無料というところが大変多くなってきているんです。

こういうようなところ、私が言っていることはちょっと矛盾しているんですが、その辺について、何かお考えがあればお聞きしたいと思います。

○橋本館長

あとでまた学芸員から答えてもらいますけれども、確かに高校の場合は、私立の美術館の場合は有料にしているところがございます。ただ文化庁を初め、できるだけ生涯学習という視点から、高校以下は無料の機会を与えたほうがいいというふうに通達は来ております。ですから、県立ですので極力、高校生には学ぶ機会を与えていきたいということです。それでは、お願いします。

○伊藤学芸係長

今の予算の1番目の小根山委員の質問に関しては、総務の、副館長のほうから答えさせていただくことになろうかと思いますが、最後のその70歳以上の無料云々というお話しですけれども、正直申し上げまして、よくご要望としてはちょうだいするんですけれども、実際に東山魁夷館にご入場していただくほとんど、半分以上といってもいいファンの方は、もう既に60歳以上、70歳以上になっていまして、まさにその収益の根幹にかかわる年齢層でいらっしゃるの、ちょっとこちらのほうを無料ということに、減免というか安くするというのは、非常に運営上、厳しいというのが現状でございます。最初の質問に答えさせていただきます。

○小根山委員

こういうことは資料としては配っていないということですか。

○中部副館長

そうですね。ちょっと数字は今、確認して、またご連絡いたしたいと思います。

○草薙委員

入場料に関してですけれども、高校生なんてほとんど来ないでしょ。ですから無料にしておいてもいいですよ。だけど、おばさん、おじさんたち、これ本当に多いんですよ、今、どの美術館でも。私のところは65歳以上を無料にしていますけれども、そうするとほとんどが無料になってしまいます。冗談でなくて、70歳以上にしなければいけない。これからは70歳以上も学生割引ぐらいにして、75歳以上からただにするぐらいにしないと、ものすごく収益に響きますよ。

○橋本館長

両方のお立場から草薙委員はおっしゃいました。確かに、私も東京など行くと割り引いてくれますね。非常に気分はいいですよ。でも現実的には、今度は反対側の立場になると非常に厳しくなっている、その人口が多いので。この辺は、今後も他県との、それから関係もありますから検討していきたいと思います。ありがとうございます。

それでは、まことに申しわけありませんが、先へ進めさせていただきます。次の項目に移りたいと思います。

(2) 平成27年度事業実施について

○橋本館長

それでは(2)についてお願いいたします。

○中部副館長

平成27年度長野県信濃美術館 説明資料を説明

○橋本館長

それでは、時間も押していますので、ご意見、ご質問、おりませてくださいと思います。

○草薙委員

よろしいですか、16ページ、教育普及事業計画というのがありますね。これ見るとすごく違和感を感じるんですよ。

私の考えでは、展覧会を企画する人と、教育普及に携わる人、もう50%、50%。そのぐらい教育普及というものが、今ものすごく重要視されてきています。

出張美術講座なんかをしていらして大変なんだろうと思いますけれども、もう少し教育普及について考えるべきじゃないかと。美術講座みたいなものを開くだけでは今や教育普及なんて言われていません、当たり前のことであって。それは展覧会担当の人がやればいいことでもありますし、もっと何か、よそから講師を呼ぶなり何なりして、いろいろなことをやっていかなければいけないということを、少し館として考えるべきじゃないかと思います。いや、もう本当に古い、古めかしい教育普及事業計画です、これでは、と思います。

○橋本館長

貴重なご意見、ありがとうございます。さっきの研究とともに、教育普及というのは一つの大きな柱になっているところの美術館が多くなっております。私もそういう面は関係があるので、強めていきたいと思います。ありがとうございます。

今、教育普及との関連から、西澤委員、何かありますか。美術の先生方の側からと美術館と

の関係でも結構ですが。

○西澤委員

そうですね。ここ信濃美術館に集まってくる先生方には、年代の若い先生方が結構おいでになるんです。これが今、種をまいているところなので、どう育ってくるかなということが大いに期待できるかと思っています。それだけに新しい美術館が建設されるという検討が教育現場にも見えてくると、いろいろな水が流れてくるんじゃないかということを楽しんでいます。

それから年代的に見ると、やはりここら辺の企画のところには、対象にした年代を書いておくだけでもアピールの仕方とか、PRの仕方を工夫していくことができそうで、随分違うかなと思います。

意外と、年配の方が美術にかかわってやっていたらいいですね。エネルギーをすごく持っています。特に女性の方なんかはすごいパワーを持っていますので、私はそこら辺のところも受け入れの窓口を設定していくのにはいい環境にあるのではないかと思います。ここへ、今日来るに当たっても、入ったときの雰囲気です。御開帳の雰囲気がそのままこっちに流れてきているのかなというふうに思いましたので、他ととの連携というようなことです。

それから、町や市街地に出てみると、先ほどはマンガの話がありましたけれども、マンガという言葉はあまり出て来ないんです。アニメだと思えます。アニメショップにはものすごい若者たちがいる。中学生かな、高校生かなと思うと小学生が中学生や高校生の格好をして、なんちゃって高校生というようなものを着てまでも、来たい、見たい。魅力を感じているということでは、子供たちのほうがもっと楽しみ方を知っているんじゃないかなと思いますので、学校現場の先生方ばかりでなく、むしろ子供たちの声を聞き入れるというふうな環境を、学校現場もそうですけれども、教育普及の中で新しく入れていくのも一つの手かなというふうに感じております。

○橋本館長

ありがとうございます。高松委員の慈光幼稚園にもお伺いさせていただきましたけれども、とても立派な施設なんですよ。

西澤委員は小学校、中学校対象なんですけど、小さいお子さんについて、さっき草薙委員がゼロ歳からとおっしゃいましたので、何かございましたら。

○高松委員

ご指名いただきましたので何ですが、子供たちにとって美術館というのは一つの環境であって、そこで子供たちが絵を見たり、この空気を楽しみながら、自分が何かかきたてていく場だと思っています。

そういう意味で、既存のこういう展示のほかにもどういった事柄を、その気持ちを受けとめて美術に対して参加していくかというチャンスも大事かなというようなことで、私もさっき自己紹介で申しあげましたが、川本人形美術館、もう川本さんが亡くなって、それこそ先ほどだんだん高齢化していくと入場者数も減ってきているわけですが。その環境の中で、どうやって自分たちが人形をつくって表現していくかというようなところにちょっとウエイトを置こうかというような話をしているわけですが。

ここはもう有名な方の、時折というか、置くあれですよ。その環境の中で、かきたてるという環境を甦生と捉えて、その中で県民が創造的な活動にかかわっていくようなチャンスが設けられたらいいのかなというふうに思っています。

もう一つ、入館者の数を問題にするかどうかということなんですけど、ある意味、問題にしなければいけないと思いますし、その中の一つは、私は何という法律かわかりませんが、観光バ

スの運転手を二人にするという、ある距離を越えると二人にしなければいけないというようなことで、こういったところがやっぱり一つの影響を受けていくのかなというようなことを思っております。そうすると、ここだともう名古屋はだめ、東京、東京はだめなんですか、もう二人いないと来れないというようなことで、今まで、例えばどここの温泉とここと組み合わせて行こうというようにしたものが、一泊しないとだめとか二泊しないとだめというようなことになって、そういうことで入館者数は減っていると思っています。なので、それをいいとするのか、責めるのかというようなこともあるわけですけども。

私はもうそういう意味で、だんだん厳しくなってくると、入場者数というのはあまり望めないと思うし、そうじゃない中で充実を図っていくには、この美術館というものを一つの県の唯一の美術的ないい環境として、県民が心が沸き立つような活動とセットしていただくとうれしいなど、全く素人でわかりませんが、そんなふうに感じております。

○橋本館長

ありがとうございました。小坂委員さん、仏像展でお世話になっておりますが、本年度の展覧会全体でも、今、実施している展覧会でもよろしいですので、よろしく願いいたします。

○小坂委員

今、“いのり”のかたち展をやっていて、入場者数、間もなく見込みの3万人ということで、目標達成ではありますけれども、実は私自身はもっとうんと来るんじゃないかと期待したんです。というのは、信濃美術館では稀な国宝2点を苦労して持ってきたということもありますし、また御開帳期間中、600万人を超える人が来る中で、3万人というよりも、もうちょっと狙えたのではないのかなと思って、我々の反省も含めて、何でもうちょっと呼べないかなということは考えておまして、それはやっぱり善光寺に来てそのまま帰ってしまう人が多いんだということが、これは信濃美術館のみならず、ほかの商店街などにも言えることだと思うんですが。せっかくすぐ隣にあって、しかも7年に一度の大イベントをやっている、それをどうやって結びつけられるかなということも、もう次の御開帳は7年待たなければいけないですけども、考えたいなというふうに思いました。

石川県に北国新聞というやっぱり地元紙がありますが、そこの社長さんが、この新幹線延伸を機会に長野に来て御開帳を見に行つたという話を聞きまして、どうですかといたら、隣の美術館にも行って見てきたと言うんですね。だから情報があって興味のおありになる方は足を運んでくれるんだろうと。

ただ、やっぱり非常に渋い展示でもありますので、どういう形で、もうちょっと足を運んでもらえるかなというのを、今、考えていたところで、一緒に知恵を絞っていきたいなと思っております。

○橋本館長

ありがとうございます。では石川委員、お願いいたします。

○石川委員

今回の仏像の企画展の会期中、人を案内したりして今日で3回、信濃美術館に伺っていますけれども、こんなに人が入ってよかったと思いました。今回はやはり普段とは全然違う人の流れができていると思います。

先ほど草薙委員からワークショップとか教育普及のお話しありましたが、今回の御開帳期間、門前界隈と信濃美術館がいろいろなかたちで協力し合った活動が出来ました。魁夷のリトグラフを30点ほど町なかで展示をする「みんなでカイイ！」の企画が美術館を身近に感じ

るひとつの試みになったと思いますし、今日もその展示を着物で見て歩こうというツアーをや
って、午前中学芸員の方に作品解説をお願いしました。

今回のご開帳を機に立ち上げた門前文化会議のいくつかの企画に、信濃美術館の協力をいた
だきました。nextに登録している若手のアーティストが門前に一か月レジデンスして、パテオ
大門という商業施設の中庭という公共的な空間で作品制作をしました。この間は版画家による
善光寺の伝説のワイドな紙芝居制作と、その版画家デザインの布引牛にみんなで色を塗る、そ
れこそ子供からおばあちゃんまで参加できるワークショップをやっていただきました。

ご開帳などで、信濃美術館が地域に出て一緒にやっていただいたというのは初めてではない
かと思っています。やはりこういうことを積み重ねていくことが地域にとっても大きな力にな
るのではと、今回感じました。ありがとうございました。

○橋本館長

どうぞ。

○小野委員

すみません、先ほど小坂委員のほうからありましたけれども、渋い展示ということですが、
善光寺にいらっしゃっている方、皆さん渋いので、大変ニーズに合っていると思います。

ただ、マンガ展のところでも申し上げたかたんですが、NHKの事業部等ともお話しを、
私、したりもしてまして、要するに美術館側がターゲットとする年齢層に合った広報の仕方
をしていない、そこが問題であるというマスコミさんからの、自分たちは展覧会を売るだけだ
と、契約に基づいて、そしてなかなかシビアなんです、非常に。それで長野局のほうに事業部
のほうから電話をしていただいて、放送を流していただいたりもしたんですけれども、やはり
美術館側が地元のことをよくわかっているわけだから、そういったことをちゃんと考慮して、
果たして広報していますかと、だって御嶽山を理由にされるけれども、別の展覧会は入ってい
るじゃないかということなんです。

で、そういった、何でも垂れ流しにすればいい、ポスター貼ればいいということではなくて、
ちゃんと丁寧に支持してくださる層のニーズに合ったお知らせの仕方というのも工夫されると
よろしいのではないかと思います。

○橋本館長

おっしゃるとおりだと思います。ターゲットにした企画もしております。ですから、いろい
ろな仕掛けはしておりますけれども、先ほど言ったように、大きな企画展としてのマンガ展に
関しては、まだ努力不足であったと思います。反省しております。ありがとうございます。

石川委員から言われたように、今回の指定管理、2年目ですが、その中心課題は地域の皆様
ということで、そういった意味では、石川委員からいろいろとご協力いただいており、我々も
一歩ずつ外へ出て活動をするという体制ができてきました。これも地域の支えがないとできな
いので、大変ありがたく思っております。

それでは時間ということはいらないんですけども、終了時間も決まっておりますので、次の課題に、議題に入りたいと思います。

(3) 長野県信濃美術館の整備検討について

○橋本館長

次の議題は、最初に申し上げましたように、信濃美術館の整備検討ということでございます。

今日は県から阿部課長さんがいらっしゃっておりますので、阿部課長さんからご説明、お願

いたします。

○阿部県民文化参事兼文化政策課長

第1回「長野県信濃美術館整備検討委員会」資料を説明

○橋本館長

それでは、本当にもう時間があと20分ぐらいしかないのですが、ご質問、ご意見、ご提案がございましたらよろしく願いいたします。

○小野委員

すみません、では私のほうから。まず、ちょっと申し上げてはいけないのではないかと思います。申し上げたいと思いますが、お許しいただきたいと思います。

まず先ほどの、ちょっとその前に、これ私、プリントアウトして、21年のその指針を持ってきました。文化、長野県の文化振興についての指針ということで、その中に、公立文化施設への指定管理者制度導入の長所・短所を踏まえ、施設の目的に合った最適な運営方法による施設管理が求められていますということなんですけれども。

何か長所・短所を踏まえた展開、事業展開なりをなされているかということ、そのようには思えないんです。毎年同じ課題が出てくる。そして、先ほどその実績を加味して非公募としたということなんですけれども、これは施設の性格を考慮してということではないんでしょうか、これはどんな実績があったんだろうというのが非常に問題だと思っています。

それからもう1点が、先ほどこの検討委員会では主に建物についてのことだというような、いろいろな長い、あれもこれもというのは無理なのではないかということですが、本当にそうでしょうか。多分、建物のハードを計画していくにはソフト面というものが決まらないと、どういった美術館にするのかというコンセプトがないと、まずハードは決められないですよ。だから、ちょっとそこが本当に検討委員の方はそうおっしゃっているのかなというのがまず疑問で、ちょっとそこまで、あとまだあるんですが、ちょっとそこまでお願いいたします。

○阿部県民文化参事兼文化政策課長

先にソフト・ハードの関係で、私の説明が足りなかったらいけないと思うんですが、ソフト、管理運営の面でございます。当然、ここにありますコンセプトや役割というのはソフトのことも含めて書いてございますから、そういった中で、例えば今の指定管理者制度がどうなのかとか、これからの職員の数とか、そういったものについては、委員のご指摘では、まず事務局のほうでそれはたたき台というものをしっかり積んでもらって、それを進めていけばいいのではないかとご指摘がございましたから、管理運営ということでご理解いただきたいと思いません。

それから指定管理の関係は非公募という形なんです。一般的には競争しますから当初は公募でしてたが、1期目を終わった段階で、信濃美術館については、文化振興事業団が県と一体となって県内の文化振興をやっていくという財団であるということの中から非公募ということになりました。

指定管理、非公募になりましてもすぐにそのまま委託、随意契約するということではございませんで、必ず事業団のほうから、文化会館も含めて、こんな事業をやりたいということをしつかりプレゼンをしていただきまして、そこに委員、外部の委員に入っただいて、それを評価してそこに委託をしているという形をとっておりまして、そのときに計画をしていただいたものが適切に管理・運営していただいているという中でこれまで継続してきたというふうに理解しております。

○小野委員

よろしいですか、ありがとうございます。それでは、私、ここにいらっしゃる学芸員の方は、2名ほどは私よりもキャリアの長い方ですので、私がこういったことを申し上げるのは大変失礼かと思うんですが、県のほうにはお渡ししてありまして、6点ほどあります。この紙、県のほうにお渡ししていますので、ごらんください。

まず1点目が、美術というのはプロフェッショナルな作家や展覧会活動を行う美術館という高度な専門性に支えられた世界と、地域に密着した国民文化祭のような一般の市民による、より身近な存在である生涯学習的な世界が考えられると思います。

現在、信濃美術館は前者として位置づけられています。それはその美術館というタイトルがついていまして、つまりアートセンターではない。ということは、高度な専門性が求められているわけです。

そうしますと、2番目に美術館と一般市民とを結ぶ仕組みとして、1980年代から美術館教育が盛んになってきて、信濃美術館が県立美術館としてこの役割を担っていること、つまり先ほどの後者です。であることは理解ができます。

3番目、しかしながら、①のプロフェッショナルとしての専門性は高いとは言えない。それは先ほどの私の質問に答えられていませんし、入場者数がどんどん減っていく、さあどうしよう、なぜ今の指定管理者が評価されるのかということ、私には全くわかりません。美術館のこの協議会でも毎回話題となる、先ほども出ましたが、学芸員の質が確保されているとはいえない。つまり学芸員が育っていないわけです。したがって、建物を建て替えたとしても、長年の懸案事項である学芸員の専門性にかかわる質の保証が改善確保できるとは思えません。

4番目、3と関連しますが、館長の専門性も大切です。展覧会や美術館運営にかかわる実績のある館長が必要です。そうでないと館のネットワーク、全国の、これまでの運営、それから館長同士のネットワーク、そして専門性を重視した展覧会、それから一般の人に向けた展覧会、そういったものをバランスよく持ってくる力のある館長が必要です。

5番目です。長野県文化振興財団が外郭団体としてであっても、指定管理者としてであっても、魅力的な美術館としての改善は見られていないと思います。財団に指定管理を委託するのは行政の都合であり、納税者とは何らかかわりがありません。納税者にしてみれば、長野県文化振興財団であろうが、ほかの団体であろうが、あるいは県の直営であろうが、よい美術館であればいいわけです。

そして最後に⑤を引き起こす、今の5番目の件ですね。引き起こす原因というのは、行政が外郭団体、あるいは指定管理者に運営を任せており、県が主体となって県の美術館としてのビジョンを持たず、主導していない無責任さにあります。つまり、先ほどの美術の重層的な意味と現状を理解していないということです。

したがって、県立美術館についての確かなビジョンと主導権を発揮することのできる、専門性の高い県の職員というのが必要になってくると思います。以上です。

○橋本館長

ありがとうございます。全て大事なご意見だと思います。

私もこの間、ソフト面の重要さ、館長も含めてというような回答を整備検討委員会で申し上げております。建物ができても中身がそれにそぐわないのでは何もならないということがございます。それから、県とこの美術館との関係は、根本的な問題があります。そのことを小野委員は提案されたと思います。

指定管理は、2年目でございます。あと3年間の中で、現有の職員で全力投球していくということが大事なことだと思います。

○小野委員

すみません、そうしましたら、今まで私、ここにまいりまして11年目か12年目ですけれども、2名か3名の学芸員の方はそこに、ここにずっといらっしゃるわけですけれども業績評価というのはどんなふうになさっているんですか、学芸員の、それが無いのに、どうやって査定をしていくんですか。

○橋本館長

これについては草薙委員、全国的にみましていかがなんでしょうか、学芸員の査定、資質、能力は。

○草薙委員

いや、小野委員がおっしゃることは全てもっともだと思いますよ。だけど、そのもっともなことができて美術館なんてほぼないと思います。そのぐらい難しいことでありますし、今の日本の美術館の力で言ったらば、とてもやっつけられないだろうと思う。

ただ、学芸員の質を高めることはこれはとても大切なことであって、今、日本の美術界は、その人の本来の質というものもあると思いますけれども、やはり学芸員を育てるような環境をどんどん削っていつてしまっている。そのことは非常に問題だと思います。

例えば指定管理者制度にしてどんどん人を減らしていく。だけれども、展覧会は12カ月やっていかなければいけない。ワークショップも、今はもうワークショップも増えてきていますから、そういう仕事の量も増えてきているという、そういうようなこともある。

ですから学芸員が育つような状態に持っていくのは、学芸員個人の問題でなくて、美術館の問題であって、あるいは県の問題です。そのことを意識しなければいけないということだと思います。それで学芸員がちっとも伸びていかないんだとしたらば、そのときは考えた方がいいんですよ。学芸員も、それから館長も。館長はとても重要だと思います。ただ著名だから呼んでくればいいというものではない。ちゃんと働いてくれる館長でなければいけない。

とにかく館長を初めとする館員が優秀になるためには、その人たちの努力も必要ですけれども、それ以外のものが、結構、今の日本の美術界では邪魔しているだろうと思います。

○橋本館長

ありがとうございます。小野委員に質問ですが、今、おっしゃられた5つの点について、よりそれに近いような美術館はご存じでしょうか。

○小野委員

なぜそういった質問を受けるのかはわかりませんが、全て言いわけなんです。お金がない、場所が狭い、建物が古い、それしか毎年聞こえてこない。そうすると、いいかげんにしてくれということなんです。何のために委員をやっているのかわからないですし、美術館側の意識が低い、それから県ですよ。一番最後に申し上げたことが最も重要だと思います。そういったイニシアティブがない。ほかの美術館、ではここがひどいというのならほかにもどこがいいんだとおっしゃいますけれども、いい美術館はいくらでもあります。

○橋本館長

もうちょっと具体的にというので教えていただきたいということです。幾らでもというように・・・

○小野委員

ただ、ご自身が美術館の館長ですからご存じでしょう。

○橋本館長

そういう投げ方は失礼だと思いますよ。私は・・・

○小野委員

そんなことないですよ。先ほどから質問にならない・・・

○橋本館長

私のイメージしている美術館と小野委員のイメージしている美術館が違っているかもしれませんので。

○小野委員

違うなら違うで結構かと思います。ただ美術館として長野県の中核となる、これから建物を建てかえる、億というお金をかけるわけですよ。その中で、そういった、ちゃんとリサーチをし、目指すものがあるんだというビジョンが今回出てくるんだと思ったんです、私、だけど・・・

○橋本館長

私からすると、リサーチをされた上で小野委員はおっしゃっているんだと思って、大変ありがたいと思ってご質問をしたんです。

○小野委員

ええ、もちろんです。

○橋本館長

理念を言うなら私も言えます。ただ、現実にはどのようなところか、私たちもそれは拝見したい、それは勉強になりますので、そういう意味の質問です。

○草薙委員

日本の美術館と、それから欧米の美術館って違うんです。小野さんがおっしゃっていることは欧米の美術館ではかなり当たり前のことになっている。学芸員というのは研究職ですよ、ヨーロッパでは。だけれども、日本ではそうじゃないんですよ。日本では学芸員は研究職ではないんです。とにかく毎日毎日の展覧会をやっていく、そのために肉体労働もしながらやっていると、それが日本の学芸員なんですよ。そういうものから始まってきている。

だけど、だんだん日本の学芸員たちも海外に留学したりしてヨーロッパの事情を知ってくると、おかしいんじゃないかと思う学芸員がとて増えてきている。それ意見を言う方、いっぱいいらっしゃるんです。ですけれども、突然、そういう意見を言っても世の中、変わるわけじゃない。

日本の美術館というのはもともとは、それこそ御開帳みたいな、そういったようなものから始まっている。ですからヨーロッパと違うんだということを前提にしていなかったら話が前に進まないんですよ。

ですから、学芸員にやたら高度な研究職としての活動を求めても、かえって美術館は困ってしまう。それ研究ばかりしていて実働部隊として働かない学芸員がいるんです。

外では評判がいいけれども、中では非常に評判が悪いということがとてもあります。それは実際に働いてくれないから。自分の研究ばかりして、そして自分の研究成果の展覧会をやるとする。そういうものというのは、えてして、入らない場合が多い。日本ではよくいい展覧会は人が入らないと言いました。それはやっぱり高度な、程度の高い展覧会ですよ。だんだん、それではいけないということになって、今はそういうものからもっと一般の人が楽しんでくれるような、喜んでくれるような、そういう展覧会をすべきではないかというのが今の美術館のやり方ですよ。

私のところでもやっぱりそうですよ。人が来てくれそうな展覧会をする。それを大の展覧会とすると、同時開催する中の展覧会では学芸員の欲求不満を解消できるような展覧会をしていますよ。大の展覧会に人が入ってくれるので、中の展覧会も割と入ってくれる。

ですから、今の日本の美術界というものを理解しなければいけない。理解した上で、自分たちで勉強していく以外、仕方ないです。ですから、あまり知られていない作家かもしれない。あるいは、一般的には評価されていないかもしれない。けども、その作家がやっぱり調べるだけの価値があると学芸員が理解したならば、そういうことをやって、すみのほうでそれを展示しておいて、大きい展覧会を見に来てくださった方にも見ていただくと。

そうしますと、結構そういうものは玄人好みですから、新聞に載ったり、展覧会批評に載ったりします。私のところでも、山本直彰という作家の展覧会をしましたが、まあ一般の方が見るとちょっと抽象的で、この作家のどこがいいのかなと思うかもしれない。でも美術館関係者とか、新聞の美術記者とかいろいろな方がいらして下さって、新聞評なんかに載りましたので、芸術選奨文部科学大臣賞をとったんです。それから神奈川県文化賞ももらいました。そうすると初めて市のトップたちは、ああそういうものをもらうからあの作家はいい作家なんだと思うんです。それが現実ですから、そういったようなことをやっていかなければいけない。

やたら自分だけが知っているようなことをやってもだめなんです。高度なことをやっても、これは日本の美術館では残念ながらそうなんです。欧米の美術館とは違うということをも日本の美術館人は意識してなければいけないと思います。

○小野委員

ちょっとよろしいですか。私が申し上げているのは理念だけとおっしゃいますけれども、そもそも理念なくしては何もできないということと、それから欧米の美術館、こだわって申しわけないんですけども、現在、非常にいい学芸員の方が育っていらっしゃると思います、日本で。そして、今までマスコミ主導型の展覧会を下して、展覧会を買ってくるというものをちゃんとリフォームして、例えば世田谷美術館のジャポニズム展もそうでしたけれども、私はあれ最初の段階からリストを見ていますけれども、きちんと全部、読みかえて、そして日本の文脈の中で、そしてジャポニズム研究というものをきちんと踏まえた上でカタログを編纂し直しました、あれは、そういったものもあります。

そして例えば大島（徹也）さんです。愛知にいらっしゃった、テラから最初にお金をもらわれて展覧会をされましたけれども、そういったジャクソン・ポロックもやられました。それから、今、新しい展覧会というものを次々と、ちゃんと外部資金をとったりして努力してやっていくこともあると思います。

それからこの前の練馬区立美術館で、あそこもいろいろ苦労しながら民間から館長、そして館長の方は民間、サントリー出身だったと思いますけれども、学芸員資格をお取りになって頑張っているわけですね。この前の小林清親展も加藤陽介さんのご研究の、あの長年のご研究の内容だったと思いますけれども、大変よかったと思います。

それから横美（横浜美術館）も頑張っています。あの方のもとに、ですから、名前を挙げろと言われたら幾らでもあるわけですね。そして幾らでもみんな努力しているわけですね。

でも、私が申し上げているのは、理念なくして何もできないし、お金がないといって開き直らないでいただきたいんです。この1億何千万円が税金で使われているわけです。そのことに対する責任、それから厳しさというものをちゃんと県は感じていただきたいんです。

だから欧米の美術館とは違う、日本は違うんだと、それは違います、もちろん違います。私が言っていることは理念的なことかもしれません。でも、やっている美術館は幾らでもあります。それは指定管理になっています。それでもみんな努力しています。

○草薙委員

ただ、今挙げたところは、展覧会費用がもう違います。全然違います。

○小野委員

もちろん、こことは。でも、では建てかえる必要ないじゃないですか、美術館は相当税金、そんなにお金つぎ込めないんだから、建物を建てて新しくしたらものすごい費用がかかりますよ。それでまた増員していく。そうしたらもっとお金がかかる。そのうちの職員はどう思っていますか。

○橋本館長

小山委員、お願いいたします。

○小山委員

私は信濃美術館は、誰からも見捨てられた独居老人みたいと、ずっと思っていて、あるところに書いたんですけども。今回もその入館者が少なかった問題が出ていますんですけども、やっぱり今、東京に新幹線で行けば、素晴らしい美術館があるわけですし、本当に美術の好きな人は長野県内にたくさんいらっしゃいますけれども、その信濃美術館のぼろっちなというのは、もうみんな知っているわけですよ。

展覧会も地元でいいものを見たいんですけども、やっぱりどうせろくな物をしていないだろうというか、もう本当にそういうのが染みわたっていると思うんです。ですから、手塚治虫のマンガ展ですか、それとか高橋節郎さんの展示とか、やっぱり違う場所でやったほうがもしかしたらもっと入ったんじゃないかというぐらい、もうはっきり申しまして、ここに来る気がしない美術館という存在に信濃美術館はなっていると思われま。結構、美術の好きな人は相当レベルが低いと、信濃美術館に対してははっきり思っているんですよ。

ですから、やっとな県のほうが動いてくださって、抜本的なその考え方からして、その予算付けから全て洗い直して考えてくださると思っていますので、今回については、小手先のちょっと大きくするとか、今よりちょっと見栄えのいい建物にするとか、そういうことじゃなくて、根本的に、今の長野県にあるべき美術館の姿を模索してくださるんだというふうに信じておりますので、ぜひともよろしくお願ひしたいと思います。

それでちょっと、この何というんですか、第1回の委員の主な意見みたいところでちょっと気になる場所があったんですけども。

最初の、一番最初の3番目のサイトウ・キネンの松本市は動で、長野市は静のイメージなので、そんな美術館にしてはどうか、みたいを書いてあるんですけども、何かこういう小さな長野市と松本みたいな、そういう考えではなくて、その上にあるように、世界的に見て魅力的な施設、ぜひそういう視点でやっていただきたいと思います。

松本対長野的な発想は長野県の人には陥りがちな発想で、そうではなくて、世界的に見てですし、全国的に見て、魅力ある施設が魅力ある企画をすれば、九州から北海道からいいものがあったら人は来るんです、そういうものにぜひしていただきたいというふうに思います。

あと、この下から2番目の、だれもが楽しみ学べる顧客目線を重視した美術館と、これはもう非常に当然のことだと思うんですけども、3番目に作品中心でない、県民が気軽に足を運べる美術館と書いてあって、これもいろいろな意見の中に出たと思うんですが、作品軽視と受け取れる意見を、ここに主な意見として取り上げるにはいかなものか。言いたいことはわかるんです。だけど美術館の核というのはやっぱり作品だと思うんです。そうでなかったら美術館でなくていいわけですよ。公民館的なものでいいわけですから。

だから、何かこういう意見をここに書くというのはどうかなというふうに思ってしまう。やっぱりすばらしい作品のコレクションあっての、それでなおかつ総合的な施設ということが目指されるべきだと思うんです。

それで、ちょっと長くなってしまいうんですけども。全部見直すということなので、信濃美術館は今までコレクションのコンセプトとして、信州の風景画というのがありましたよね。あと郷土ゆかりの作家、郷土ゆかりの作家ということの研究。それらを展示するのも当然だと思うんですけども、長野県で信州の風景画を展示してそれが果たして魅力的なのでしょうか。これはちょっとしたサブテーマぐらいな感じで、もっとやっぱり世界的な視点で現在の美術における、重要なんじゃないかという作品を、先見性を持ってリーズナブルに買って、20年、30年後、100年後に見てすばらしいコレクションを築いたんだなという、そういうものにしていただきたいと思います。

ですから長野県は延々と信州の風景画ということで集めており、だから、当然コレクション展も信州の風景画展となるんですけども、はっきり言ってそんなもの見たくもないんですよ、別に。やっぱり、広島美術館でしたか、その印象派のものが来れば、皆さん来ますよね。別に長野住んでいるのに何で改めて信州の、風景を見なければならぬのか、昔からそう思っていたんですけども、予算を通すのに議員の方を納得させるのに一番いいのかなみたいなことなのでしょうか。それに何の疑問もなくずっと続けていくのは本当にやめていただきたいというか、細々コレクションしていくテーマとしてあってもいいと思いますけれども。

ですから、今回はコレクションのコンセプトのベクトルも世界的な視点である美術館をつくらせていただきたいというふうに思います。

○橋本館長

ありがとうございます。小根山委員、先ほどのこと、違いますか、それでは石川委員。

○石川委員

今、小山委員からも出たように、私たちは信濃美術館を何とかしたいと思いをずっと持ちつつ、おそらく無理かなと思っていたのが、県が大きなハンドルを切ってくれたのをここ1、2年感じて、本当にうれしく思っています。やはり、私たちがみんななくなった後、未来の長野県民にとって意味のある美術館というか、そういうものを目指していただきたいです。また、長野市は市立美術館を持っていないのです。それで、そういうことを考えますと、この城山公園全体を活用して、長野市もある部分、予算措置をして、例えばですけども、金沢の21世紀美術館の中に市民ギャラリー的なスペースがありますが、そういうものを併設できたらと思います。

そういうような、県立美術館と長野市の中に新しい協力関係があってもいいのではないかと思います。現実的に行政で可能なかどうか、よくわかりませんが。

これだけ善光寺にたくさんのお客様がいらしていても、東庭園というのが暗い雰囲気なので、信濃美術館への動線が途絶えるのです。東庭園を、びんずる市なんかで使わせていただいて、人が動いていると観光客も入ってくるのです。何とか善光寺からの動線を、どうやったら文化ゾーンとして城山公園に、そして信濃美術館に引っ張ってこられるか考えていかなければいけ

ないと思います。これは善光寺や長野市とも大いに協議して、何か新しい案やアイデアも出てくるのではないかと思います。みんなそういう善光寺とつながる文化ゾーンの形成を期待していると思います。

○橋本館長

ありがとうございます。時間を回ってしまいましたけれども、まだご発言、せっかく県からご提案されていますので、小根山委員、おひと言、お願いいたします。

○小根山委員

ちょっと話がそれるんですが、この美術館を設計した林昌二さんという方は、当社の本社を設計していただいた方で、先生が設計した大きなデスクも捨てずに、今、確か保存してあるはずでして。そういう意味では大変、私も社の一人として非常に思いが深いところではありますが。

まず一つ、ちょっと基本的なことをお聞きしたいんですが、今日、この美術館の協議会を開いているわけですね。それから、片方で美術館の整備検討委員会のご報告もいただいて、そこに対して、今日も皆さん、委員からいろいろ意見が出ているんですが、非常に二重構造といたしますか、このところで発言したことはどうなってしまうだろうと。委員の皆さん、ここで発言しても隔靴搔痒といいますか、果たして県に、今日お見えなんですけど、どういうふうに伝わって行って、この検討委員会に反映されるだろうと。じゃないと、全く無意味な発言で、大変発言していただいた委員の皆さんには申しわけないんですけども、一種のガス抜きだけされたんじゃないかというふうに受けとられないような解釈をしていただいて、十分、検討委員会に生かしていただきたいと。

それから、今後こういうふうにあるんでしょうけれども、その位置関係、どうなっているんだというふうには感じているところがあります。

○橋本館長

ありがとうございます。それでは小坂委員、お願いいたします。

○小坂委員

私は利用者の立場から、この今までの信濃美術館というのが、美術館的な役割と博物館的な役割、美術館と博物館、ちょっと違うような感じがしますが、両方担ってきたような気がしておりまして、そこら辺の県立美術館というものと、県立博物館というものをどういうふうに県のほうでお考えになるのかということの一つ、お伺いしたいのと。

やはり美術というのは好き嫌いがありますから、さらに意見を出せと言われても、もう百家争鳴になってどうしようもないことになると思うので、やはり県のお金を使う、文化政策ですから、ある程度、県でこういう構えで取り組みたいというものを問うていただいたほうがいいのではないかなというのが意見であります。

それともう一つ、これは無責任な個人の意見ではありますが、前も橋本館長にもお話ししたと思うんですが、この東山魁夷館というもの、これ東山魁夷の作品が、今、美術界でどれだけの魅力があって、その中でこの信濃美術館の東山魁夷館というものがどれだけお客さんを引きつけられるものなのか、再検討が必要であろうということと、これからやるのであれば、大胆なことをしなければいけないなと思っていて、私の思いつきでは、この東山魁夷の絵の庭を、巨大なものをつくってしまえということ、一つ、大変無責任で恐縮ですが、人を呼べるものとしてやったらどうかなというふうに思います。

○橋本館長

ありがとうございました。それでは高松委員、時間ないので本当に短くお願いいたします。申しわけありませんが。

○高松委員

すみません、不勉強のまま、協議会が何をするのか、この美術館がどういう目的で建てられたのかというようなことに対して非常に甘いまま出てきましたので、今日の話のようなことを検討していく会だとすると、もう少し頭を切りかえてこなければいけないのかなというふうに思ったんですが。

今までの、その広報の仕方が、展覧会のあれはさまざまな形で来るんですけども、中の、要するに見えない活動の部分、学芸員さんがどんな研究をしていらっしゃるのか、どんな成果があったのか、その活動の内容部分についてあまり、県民に対して、あるいは全国に対して発信がなかったのか、私が弱いのか、ちょっとわからないんですけども、そんなところももう少し充実していただくと、また違った魅力が出てくると思います。

今のところ、この間、この委員になって初めて、初めてといいますか、ちゃんと見ておく、このごろの、この美術館を見ておかなければいけないと思って見にきたんです。本当に老人に対しては優しくないです。執務に当たっておられる方たちはものすごく優しくて、中に入ったらどうやって動いていいかわからないような、この館の中、上手にご案内いただきました。そういうすごくホットな面も持っていたらっしゃるなというふうに思いましたので、あと、広報の仕方も検討していただくとうれしかなと思います。

○橋本館長

ありがとうございました。西澤委員、最後に。

○西澤委員

私がお子たちと現場でかかわったときに助けていただいたのが信濃美術館の学芸員さんです。そのときに女流五人展でしたか、現代美術がわからなくて子供たちと来ました。そのときに、小山さんの作品もありましたし、青木さんの作品もありましたし、草間さんの作品もあって、ものすごい、その女性のパワーというかを感じました。子供たちはインスタレーションもそこで覚えてきました。

その子たちに、直接学校へ帰ろうかと言ったときに、もう一つどこかへ寄りたいなと言ったので、善光寺を横切って、地元の大学へ足を運んで、橋本先生のいるところとか訪ねたんです。その子たちが今10年たって、年賀状を寄こして、あのときにこういうふうに行ったところに、今、先生来ていますとか、あるいは美術の先生になりましたとか、また行ってみたいとか、印象に残ってるんですよ。

子供たちにとってもそうですし、先輩たちもそうだと思うんですけども、信濃美術館という言葉は本当に切れない言葉だと思うんです。それだけに、現代美術の時もそうでしたし、いろいろな風を吹かしてくれるところであったり、学芸員さんともしっかりとつながっていると思います。そういう意味で、長野県の教育関係の現場での美術関係には、つながれるところはすごくあるんじゃないかなというふうに思っています。

霜田さんにもそのときに大変お世話になりましたし、伊藤さんもそのときから、ここにまた戻ってきていただいて、こんなに立派にやっていただいている。私は誇りに感じています。ぜひそれがこれから生きてくるんだろうなと思いますので、また再びやっていただければ、美を高めていただきたいなというふうに思っています。以上です。

○橋本館長

ありがとうございます。

時間が来ましたので、これで終わりたいんですが、その他としてありますか。

○阿部県民文化参事兼文化政策課長

先ほど小根山委員さんのほうから、整備検討委員会とこの協議会の立ち位置というお話がありました。

冒頭、橋本館長からもお話しがございましたけれども、整備検討委員会というのは、県のほうでこういった要綱をつくりまして専門的に検討していただくという中に、橋本館長も特別委員という形でご参加いただいております。その信濃美術館の館長であるということで、そこに当協議会の意見を反映するためにも、この協議会の皆さんのご意見を聞かせていただきたいということになりました。

いろいろな意見出てきて当然だと思いますから、私どももこうしてこの席にも同席させていただいたこともございますから、いただいた意見はそのまま持ち帰らせていただいて、館長から正式にはいただきますけれども、こういったご意見がありましたということで、整備検討委員会のほうに報告させていただきたいということで考えておりますけれども、そんな整理でよろしいでしょうか。

○草薙委員

ひと言いいですか。これから建物を建てる、実際、計画はいろいろとあると思うんです。私の知っている限り、著名な建築家に建ててもらった美術館、ほとんどが評判が悪いんです。どうしてかと言いますと、著名な建築家ですと、その人の意見を尊重しなければいけないんです。それから実際に一番よくわかっている学芸員は下っ端ですからそんな偉い建築家に、直接意見を言うてはいけないみたいな感じがあって、失敗作の新しい美術館ができるということです。

その中で、豊田市美術館は割と評判がいいです。あれは学芸員が全然遠慮しない人で、建築家にいろいろな意見を言いあつた。だけど、なかなかそうはいかない。お役人さんたちが相手ですよ、なかなか自分たちもそういう意見が言えないと。

それから、箱物というのは、えてして、トップにとってはなるべく立派なものを、いいもの、著名な建築家にやってもらったほうが良いということで、そういう傾向にあると。だから、それはよほど気を付けなければいけない。それから、やたら吹き抜けが広くて、維持にお金がかかるようなものをつくってはいけないわけです。やっぱりメンテナンスにお金のかからないものをつくらなければいけない。その二つは十分気をつけてください。

○橋本館長

貴重なご意見、ありがとうございました。

○阿部県民文化参事兼文化政策課長

ありがとうございます。それからもう1点、小坂委員さんから、こういったものは白紙でやるんじゃなくて県のほうである程度示してというお話でございまして。今日、ここで示させていただいた素々案というのは、委員さんの意見も反映しておりますけれども、今の段階の県の立場としての県としての中間とりまとめをしているという形で、やはり何も無い中ではご議論できないということで示させていただいたものでございます。

それで、こんな短い時間の中でなかなか伺うのも難しいということで、またお許しいただければ、館長さんを経由して、この協議会の委員さんとしてのご意見として、まだ検討期間がございましたから、ちょうだいさせていただければありがたいなというふうに考えております。

4 報告・その他

(1) 長野県県民文化部文化政策課からの説明事項

○橋本館長

当然、この短い時間内に尽くされないので、今、課長から言われましたように、またご意見があれば、紙面にいただければありがたいと思っております。

それでは、一応これで議題は終わります、その他に入ります。

3時半を過ぎて、大変つらい思いをしながら申し上げていますが、4の(1)についてお願いいたします。

○阿部県民文化参事兼文化政策課長

文化振興元年を説明

○橋本館長

ありがとうございます。その他で、あと事務局のほうからございますか。

それでは、ないようですので、以上を持ちまして終わりとさせていただきます。

ビジョンや理念なくして委員会を設けても何もなりません。やはり向かうところを明確にして、この委員会もそうですけれども、有意義な話し合いを進めていきたいと、これからも思っております。

この委員会の協議が本当に、小根山委員が言われたようにガス抜きにならないように、皆様の貴重なご意見をあらゆる部分で反映させていくよう努めていきたいと思えます。本日は本当にありがとうございました。

この後、まだ展覧会をごらんになっていない方、学芸員がご案内いたしますので、どうぞお残りになっていただきたいと思えます。

以上をもちまして終わります。ありがとうございました。